自主保全士検定試験　企業の取り組み事例

大日精化工業株式会社

施設・設備本部　設備管理部長
日浅 隆さん

製造と工務の両輪で自主保全を実現。次の目標は「私も直す人」という意識改革。

独自の技術力で、顔料、着色料、インキ、樹脂合成まで広く製造する化学メーカー「大日精化工業」。
1931年創業の老舗が取り組むのは、製造部門と保全部門による“自主保全活動”の実現。

今回、9名の成績優秀者を輩出した大日精化工業グループ。多くの優秀な自主保全士を擁しながらも、施設・設備本部 設備管理部長の日浅隆さんは「本格的なTPM活動への実践に至っておらず下地作り中」と説明する。

とかく製造業にありがちだが、かつて同社も設備トラブルは工務部門任せだった。いわゆる“私作る人、あなた直す人”という意識が根強く、保全に関わる全体での効率の悪さが常態化していたという。

「この改善のためには製造部門と工務部門の両輪による自主保全活動が不可欠です。そこで2011年頃から工務部門主体の自主保全活動を始め、2015年からは製造部門のオペレーターを中心に社員教育を兼ねた自主保全士資格取得を推し進めました」

その成果は2020年に資格取得者が約260人という結果に表れる。自主保全活動の組織作りを経て「製造部門と工務部門の両輪が揃っての自主保全活動」が実現した。

2021年から両輪揃っての活動がスタートしてまだ数年だが「突発故障は減少傾向にある」と日浅さん。2023年度の合格者を含めると、現在の取得者は約500人。オペレーターの意識も変わり、「設備の異音に敏感になりました。また何か異常があれば初動対応し、専門的な知識や技術が必要な場合のみ工務部門に依頼するように体制を整えています。何より各自が5Sの意味を身につけているように感じます」

自主保全活動が軌道に乗ると、次なる課題も見えてきた。潜在欠陥の洗い出しや定期修繕の重要性の認知、予知保全の推進などだが、なかでも第一の課題として提起するのは“私作る人”という意識がまだまだ改善されないこと。

「自分たちでも直せるトラブルなのに、依然として安易に工務部門に連絡を入れる。“私作る人、あなた直す人”という意識の慣習を、全社で改めなくてはなりません」

この意識を“私も直す人”へと変革していくことが最優先すべき目標と志を語る。